

項目	時間	備考 (関連資料)
0. 最初に 初心者に配慮したイベントであるとともに、経験者にも満足してもらえる大会を志向し、ホスピタリティある愛好者を育て、かつ会員の資質向上を図りスムーズな世代交代を促進する。		
1. EMITシステム (1) 概要 (2) 留意点	9:30 ~ 9:50	EMITの仕組み、MTRマニュアル、MTR4-ETR3-USBドライバソフト
2. Mulka2 (1) 概要 (2) 事前準備 (3) 詳細 (4) 留意点 (5) 実習 (途中昼食)	9:50 ~ 15:00	EMITtec1,2,3、Mulka2マニュアル 事前申し込みリスト、startlist、13course.coursesV8
3. その他 (1) p touch editorを使用してのラベル作成 (2) KOKUYOテンプレートカタログを使用しての賞状作成 (3) LapCombat2、Lap解析とLap CenterへのUPロードと県協会webサイト(HTML形式)への掲載 (4) 出走リスト、成績表の作成	15:10 ~ 16:30	P-TouchEditorドライバ KOKUYOテンプレートカタログドライバ

留意事項

1. 全般

- ・ミスは必ずある。何事も間違っているかもしれない視点で多面的なクロスチェックが肝要(思い込みの絶対排除)。また、間違わないやり方の励行(コピー&ペーストなど)。この場合でも都度の確認と仕上げの確認が必要。まとめたの確認のみではミスが見つかり難い。
- ・関連データ(事前申込者リスト、出走リスト、startlist、成績表等)の字体、姓名のスペースは統一しておくこと。単にコピー&ペーストでは元の字体がペーストされる。セルをダブルクリック後ペースト。姓名のスペースは注意。
- ・パソコン(ソフト)は使ってみるのが一番、習うより慣れよで、最少からうまい(習熟した)人はいない。

2. EMITシステム

- ・E-Cardのユニット最大記録数は48である(スタートユニット+リーディングユニットを含め50)。
- ・E-Card、ユニットが正常であることを必ず確認。
- ・ユニット(特にスタートユニット)とE-Cardは同梱しないこと。
- ・県協会所有コントロールユニットのコードは121~160であり、ピン穴はセンター軸より下側。
- ・バックアップラベルは4隅を確実にはめ込んだ後中心軸部をはめ込むこと。白色ラベルは外れやすいようである。

3. Mulka2

- ・アクシデントへの対応力を養っておくこと(マニュアル熟読とMulka2画面で種々いじくってみる)。
E-Card読み取り不能、番号違い、スタート時刻間違い、ペナがおかしい、ユニットが作動しないletc
- ・パソコンの電源はディスプレイOFFとかスリープ設定をしないようにしておくこと 電源オプション。
- ・startlist.csvでしか読み込まないので名前変更、excel(拡張子xls、xlsx)はダメ フォルダオプション。
OCADからエクスポートしたコースデータ(13course.coursesV8など)も名前変更はダメ。
したがってイベントごとに関係資料を入れるフォルダは必ず分けておくこと。
- ・startlist、出走リスト作成は必ず「コピー&ペースト」で行い、転記ミスがないようにすること。
バックアップラベル貼付のネームラベルデータ作成はstartlistに接続展開する。
- ・コピーする元データは作業後決して上書き保存しないこと(データが変更されているかもしれない)。
- ・ラップタイム印刷はA6、速いに設定

基準は事前申し込みリスト、E-Card&コントロールユニット番号リストおよびOCADcoursesデータ